

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02923

研究課題名（和文）欧州言語共通参照枠対応ドイツ語語彙研究

研究課題名（英文）Research on German vocabulary for the Common European Framework of Reference for Languages

研究代表者

黒田 廉（Kuroda, Kiyoshi）

富山大学・学術研究部人文科学系・教授

研究者番号：00313578

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、CEFR B1レベルを目指す日本人学習者のための語彙選定を目標とした。そのために、まず、従来型方法で選ばれた学習語彙、および近年のコーパスを基盤とした頻度表の語彙について、それぞれの特徴および学習における有効性を分析した。次に、CEFR B1準拠のドイツ語教科書で使用されている語彙を調査した。以上の分析・調査に基づいて、学習的観点および頻度的観点の両方からCEFR B1対応の5,000語を選定し、リストをホームページに掲載した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本では、これまでもしばしばドイツ語の語彙選定はなされてきたが、主に初級用の1,000-2,000語規模であることが多かった。また選定方法も、学習的配慮はなされていたが、頻度という視点に乏しかった。ドイツでは、ドイツ語の一般的な能力としてCEFR B1レベルがまず求められるが、このレベルに対応した頻度的裏付けのある語彙リストがなかった。

本研究でのリストは、日本人学習者用の配慮がなされているとともに、頻度的根拠にも支えられてもいる。本リストは、ドイツ長期滞在を目指す日本人学習者の語彙学習に寄与するとともに、CEFR B1レベルに準拠した日本人学習者用ドイツ語教材を作成することを可能にする。

研究成果の概要（英文）：The goal of this study was to select a vocabulary for Japanese learners aiming for the CEFR B1 level. For this purpose, I first analyzed the characteristics and effectiveness of the vocabulary selected with the conventional method and the vocabulary from a recent corpus-based frequency list. Next, I investigated the vocabulary used in CEFR B1-level German textbooks. Based on these analysis and investigations, 5,000 words were selected from both pedagogical and frequency perspectives, and the list was posted on the website.

研究分野：外国語教育

キーワード：CEFR 基本語彙 コーパス 頻度 辞書

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

ドイツで CEFR は、ゲーテ・インスティテュート、大学など各種ドイツ語教育機関で言語能力を評価する指標となっている。「外国語としてのドイツ語」の教材も、ほとんどが CEFR 対応のレベル表示を行い、現在 CEFR は広く受け入れられている。

CEFR は B1 が、「自立した言語使用者」とされる第一レベルで、ドイツではこのレベルが一般的語学力とされ、ドイツ国籍の取得、職業訓練の前提となっている。ドイツ留学のためには、準備として最低でも B1 レベルのドイツ語力を身に付けておくことが望ましい。また、日本の専門課程のドイツ語教育が目指すレベルの一つにもなり得る。

CEFR 自体は、よく知られているように、“Can-do Statements” という形で指標を示しているにすぎない。そのレベルの能力を実現するための具体的な語彙、文法などの言語材料が問題である。文法は従来の教材でも対処できると考えられるが、語彙については、CEFR の各レベル実現に必要な語の内訳などはわからない。

日本でも、最近 CEFR の受容は徐々に進んできてはいる。ただし、もともとドイツ語は第 2 外国語としての学習が中心であるためか、現在でも教材は、A1, A2 レベルといった初級レベルがほとんどで、B1 レベル以上は極めて乏しい。語彙集も、従来から 1,000 ~ 2,000 語程度のものは数多くあり、A1, A2 レベルには何とか対応できるかもしれないが、B1 レベルには明らかに語数が不足している。わずかにある中級用語彙集も、具体的にどの程度の語学レベルを目指すのか必ずしも明確でなかった。

加えて、従来の語彙集は、総じて選定基準が不透明で、主観的・経験的部分に依拠するところが大きく、客観的言語資料に基づいていなかった。これには、参照可能な信頼できる頻度表も不足していたという事情もあろう。しかし、近年、コーパスを基盤とした頻度表がつけられるようになり、頻度を利用した客観的な語彙選定を行う環境が整ってきていた。

### 2. 研究の目的

本研究は、以上の状況を背景に、従来学習者用に選定されてきた語彙および頻度表の語彙の特徴および問題点を明らかにしつつ、CEFR B1 レベル準拠のドイツ語教材の使用語彙を調査し、従来の学習語彙と対比させ、コーパスを基盤とした頻度表を参照しながら、学習的観点および日本の教育事情と使用頻度を考慮した CEFR B1 レベルの語彙を選定することであった。

### 3. 研究の方法

研究は次の手順で行った。

#### (1) 学習語彙リストの作成

既存の独和辞典および語彙リストから、学習語彙リストを完成させた。対象とした独和辞典は学習者向けの『アクセス独和辞典』『アポロン独和辞典』『クラウン独和辞典』『新キャンパス独和辞典』『ポケット独和辞典』6冊で、それらから重要語に指定された語彙を抽出した。加えて、ゲーテ・インスティテュートの Goethe Zertifikat B1 Wortliste、および頻度表を利用して学習語彙を選定した大園正彦氏による 5,000 語(基盤研究(C) 16K02664: 日独対照研究に基づく総合ドイツ語文法の試み: 基本語彙及び頻度の観点を交えて)を追加した。各語にはそれぞれの辞書、リストで記されている重要度レベルを付した。

#### (2) 教科書語彙リストの作成

ドイツで出版されている外国人学習者向け CEFR B1 レベルのドイツ語教科書のうち Berliner Platz 3 NEU, DaF kompakt neu B1, Menschen, Motive, Passwort, Schritte International の 6 種類 8 冊を手作業あるいはスキャナで電子テキスト化した。電子テキストを、岐阜協立大学名誉教授山田善久氏開発のコーパス処理ソフトウェア Tecely によって、各教科書での頻度を付した語彙リストを作成した。教科書はより多数を電子化する予定であったが、コロナ禍により研究補助者を使用できる時間が少なくなったこと、リスト化の際に自動処理でレマ化できない語形を修正するのに多大な労力と時間を要したことにより、かなわなかった。最終的に総数で、異なり語数 13,794 語、のべ語数 402,893 語のリストとなった。

当初、テキストを種類(会話、手紙、文法説明等)別に分類し、各語にその情報も記す予定であったが、教科書によりテキストの分類のしかたが異なり、しばしば分類すること自体難しくことから、一部のテキスト種別(ダイアログ、文法説明)を語に付記するに留まった。また、固有名詞もマークし、選定対象から一旦除外した。

リストの教科書使用語彙は、おおよそ 4 タイプ、いずれの教科書にもあり頻度が高い、いずれの教科書にもある、特定の教科書で頻度が高い、いずれの教科書でも頻度が低い、に分類し、を最優先とし、の順で、候補となる語とした。

#### (3) 教科書語彙リスト、学習語彙リストと頻度表との対比、および語の選定

教科書語彙リストを、学習語彙リスト、頻度表と対比し、語を選定した。使用した頻度表は、

主にドイツ語研究所の DeReWo, Jones/Tschirner(2006)および Tschirner/Möhrling(2018)である。他に,ベルリン・ブランデンブルグ・アカデミーの DWDS Wortverlaufskurve で年代による語の使用状況の変化も参照した。まず,教科書語彙リスト,学習語彙リスト,頻度表それぞれにあるすべてのリストで上位の語を採用語とし,後述の学習語彙,頻度表それぞれの語彙の特性を考慮しつつ,多数のリストで上位のものを優先に採用を決定していった。

#### 引用文献

Jones, R.L./Tschirner, E. (2006) *A Frequency Dictionary of German. Core Vocabulary for Learners.* London: Routledge.

Tschirner, E./Möhrling, J. (2020) *A Frequency Dictionary of German. Core Vocabulary for Learners.* Second Edition. London: Routledge.

#### 4. 研究成果

##### (1) 従来の学習語彙と頻度表の語彙の比較

本研究では,従来型の学習語彙,頻度表の語彙について,重なる程度,具体的な語の内訳,実際のテキストでの有効性を比較した。

その結果,語彙の重なる程度については,独和辞典間(従来型の学習語彙として,頻度表を利用していないとみられる独和辞典の重要語彙を使用)あるいは頻度表間では比較的高いのに対して,独和辞典と頻度表の間では重なる部分は小さく,両者のズレが大きいことが判明した。

語の内訳については,独和辞典では,

- ・ 教科書でよくみられるような具体的・日常的語が多く含まれる
- ・ 学習的性格を帯びている(語の体系性,文法教育に配慮,ドイツ文化関連の語を含む等),という特徴があった。頻度表では,
- ・ コーパス・テキストの種類が反映されて抽象的・時事的な語が含まれることが多く,学習上よく使用される具体的・日常的語が少ない。俗語もやや混じる
- ・ コーパス・テキストの地域性から,固有名詞は日本・東アジアのものは少なく,ドイツ語圏とヨーロッパ諸国のものが多い
- ・ コーパス・テキストの年代によって,新しい語が欠け,やや古い語が含まれることがあるという特徴があった。

テキストでの有効性については,実際に CEFR B1 レベル準拠の教科書でカバー率を算出することによって調査した。独和あるいは頻度表約 5,000 語の語彙で,教科書により異なるが,どちらでも異なり語数で 5~6 割,のべ語数で 8 割 5 分~9 割のカバー率であった。独和辞典の方は語の選定基準が不透明であるのに対し,頻度表は客観的・科学的であり,一見頻度表の方がリストとして優れているように見える。しかしながら,頻度表の方が独和よりカバー率が高いとは限らず,独和の方がむしろ良好な数値を示すことがあった。

##### (2) CEFR B1 対応語彙リストの作成

CEFR B1 準拠の教科書使用語彙リスト,学習語彙リスト,頻度表を比較,検討し,最終的に 5,000 語を選定し,リストをホームページ上で公開した。

語の選定にあたっては,基本的には,教科書使用語彙リスト,学習語彙リストで上位の語で,頻度表でも上位のものから採用していった。ただし,(1)の学習語彙と頻度表の語彙それぞれの特徴を考慮し,次の配慮を行った。

- ・ 頻度優先にすると,学習上で会う具体的・日常的語,同一カテゴリーの語(例:曜日名,数詞)が欠けることから,学習語彙リストの多くで重要度の高い語は入れた。
- ・ 高頻度であっても,俗語は排除した。
- ・ 日本人がドイツ語で発信することを考え,日本的な気候(例: schwül)や社会的・文化的事象(例: Tempel)を表す語,日本および近隣の国名・国民名・言語名を採用した。ドイツ語圏滞在での使用も想定していることから,ドイツ語圏および近隣の国名・国民名・言語名も入れた。

他に,

- ・ 従来の学習語彙では,比較的近年になってドイツ語に入った英語由来の語を避ける傾向にあった。本リストでは,教科書使用語彙で頻度が高く,頻度表でも上位のものは,DWDS で最近の使用状況も調べた上で,採用した(例: Team, Service)。
- ・ 学習者が使用する事象(例: Wörterbuch),施設(例: Mensa)等を表す語を追加した。
- ・ 国際的に一般的な略語(例: 単位を表す語)は排除した。
- ・ 人名は除外した。

なお,語の選定では,学習語彙と頻度表の語彙のズレに加えて,教科書使用語彙の学習語彙あるいは頻度表語彙とのズレ,および教科書ごとの使用語彙のズレも大きいという問題があった。各教科書の使用語彙は異なり語数で 3,700~5,000 語であるが,語数は同数かそれ以上の学習語彙リストまたは頻度表によっても,(1)で述べたようにカバーできる語彙は半分から 6 割程度で

ある。同じ CEFR B1 準拠といっても、教科書による使用語彙の差も大きく、教科書間で重なる語彙の割合は 4~5 割ほどで、半分以上の語彙は教科書によって異なることになる。これは、CEFR の語彙が指定されている訳ではないため教科書によって学習語彙と考えるものが異なる、語彙統制をあまり意識していない、あるいは Authentizität などの関係から教材で使用語彙を制限することが実際には難しい、といった理由が考えられる。頻度表、学習語彙リストにおける順位を勘案して選んだが、語彙選定あるいは教材作成において何を優先すべきかは、今後とも非常に難しい課題であると考えられる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 黒田 廉	4. 巻 81
2. 論文標題 中級ドイツ語教科書における頻度表の有効性	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 富山大学人文科学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 黒田 廉	4. 巻 71
2. 論文標題 頻度からみた学習独和辞典の文型 arbeitenを例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 富山大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 155-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 黒田 廉	4. 巻 69
2. 論文標題 独和辞典の重要語彙の比較	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 富山大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 195-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 黒田 廉	4. 巻 第1号
2. 論文標題 学習辞典における重要語とは？ ドイツ語の場合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 富山大学人文学部 編『人文知のカレイドスコープ』	6. 最初と最後の頁 107-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

ホームページ  
CEFR B1対応ドイツ語彙  
(<https://www.hmt.u-toyama.ac.jp/Deutsch/Wortliste/index.html>)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------